

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

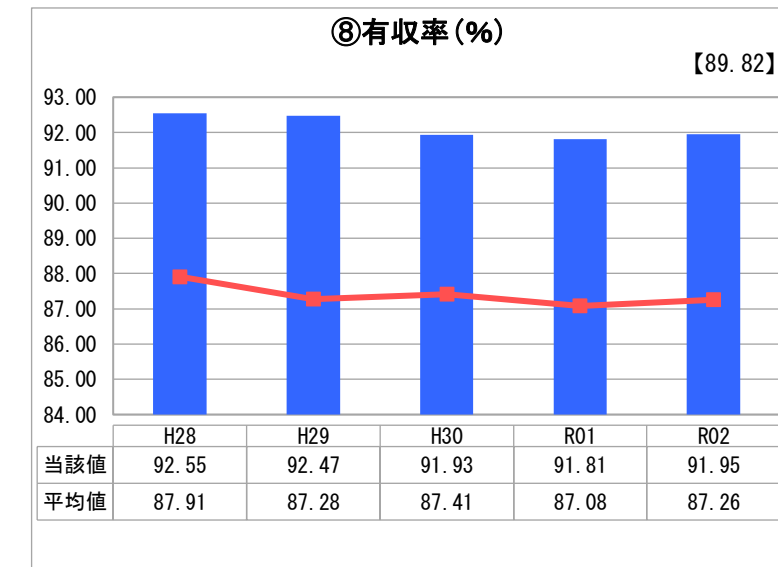
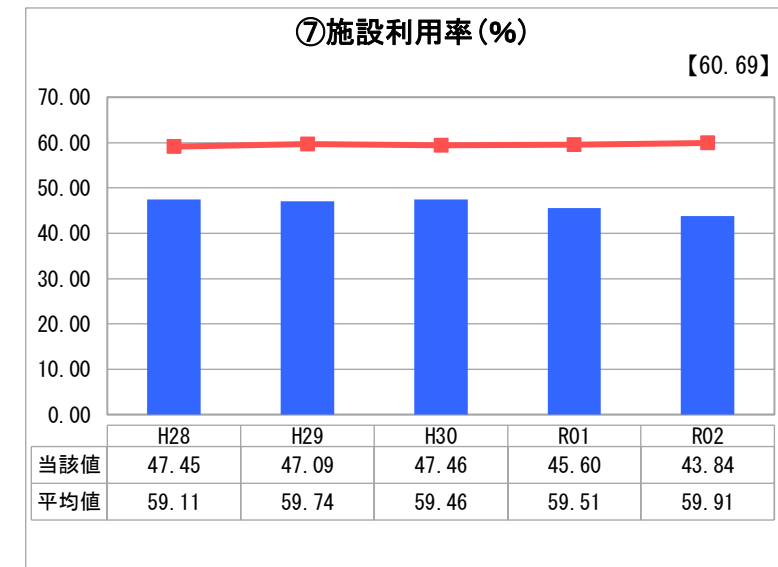
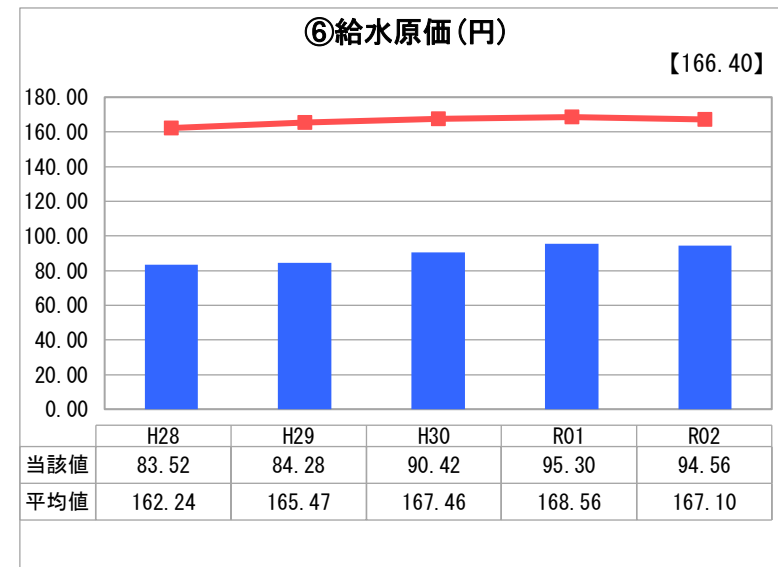
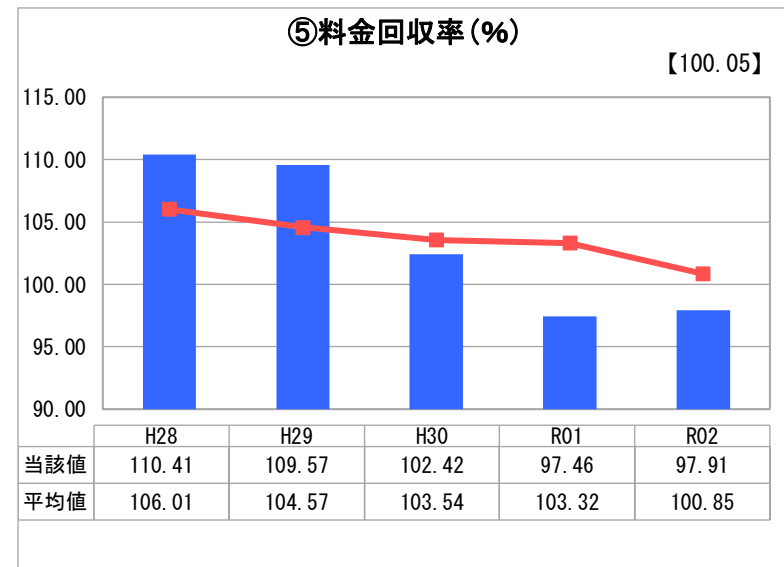
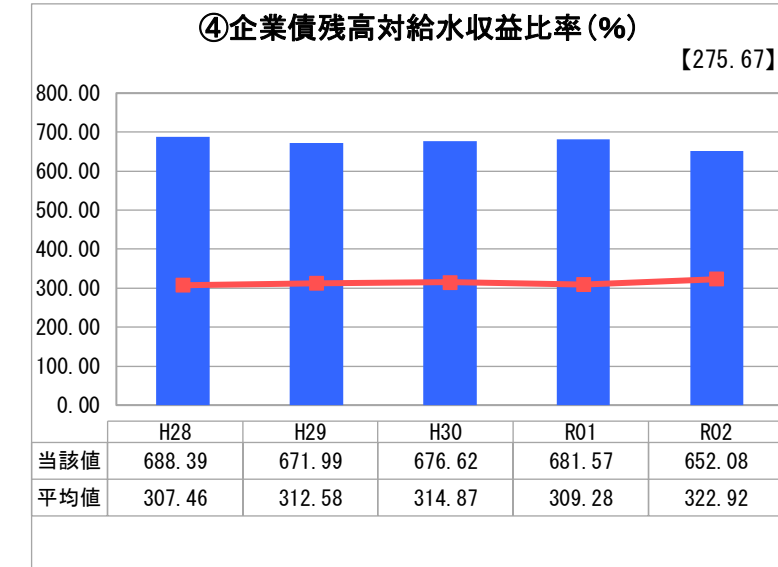
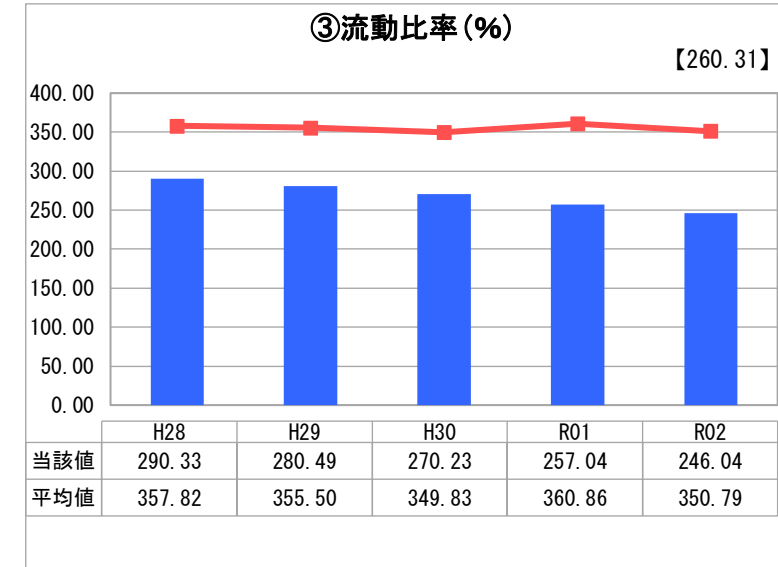
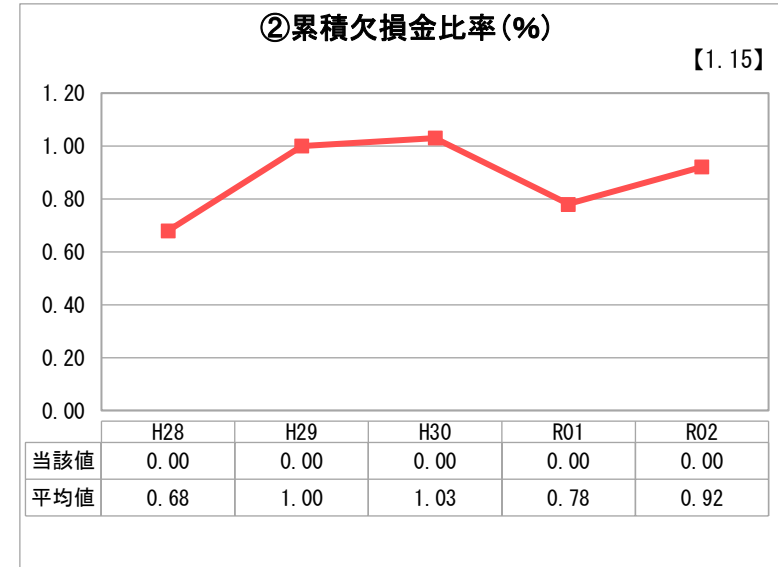
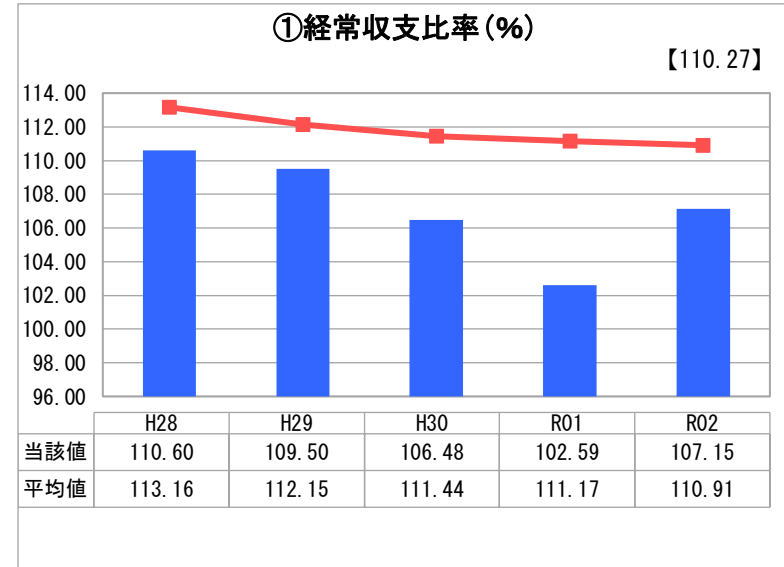
福井県 敦賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	60.09	97.95	1,815	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
64,970	251.41	258.42
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
63,223	36.92	1,712.43

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を超えているが、類似団体平均値、全国平均ともに下回っており、更なる費用削減や施設更新の財源を確保していく必要がある。令和2年10月に料金改定を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症による影響を鑑み令和3年10月まで改定を延期し、延期に伴う減収分を一般会計からの繰入金によって補ったことにより比率が改善した。

② 累積欠損金は発生していない。

③ 流動比率は減少傾向にあり、類似団体平均値、全国平均ともに下回っているが、100%を超えているため、短期的な債務に対する支払能力に問題はない状況である。

④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値、全国平均を上回っており、資金調達が企業債に依存している状態であるため、借入額の抑制等を行い、企業債残高を減少させる必要がある。

⑤ 料金回収率は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っており、給水に係る費用を給水収益で賄うことができていない状況であるため、今後更なる財源の確保として料金改定を行っていく予定である。

⑥ 給水原価は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っている。これは、水源がほぼ地下水で、浄水方法も「塩素消毒のみ」が多いため、費用を抑えることができているからである。

⑦ 施設利用率は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っているため、今後の水需要動向によって施設規模の見直しを検討する必要がある。

⑧ 有収率は、類似団体平均値、全国平均ともに上回っている状況であるが、より一層の漏水防止対策を進め向上に努めていく。

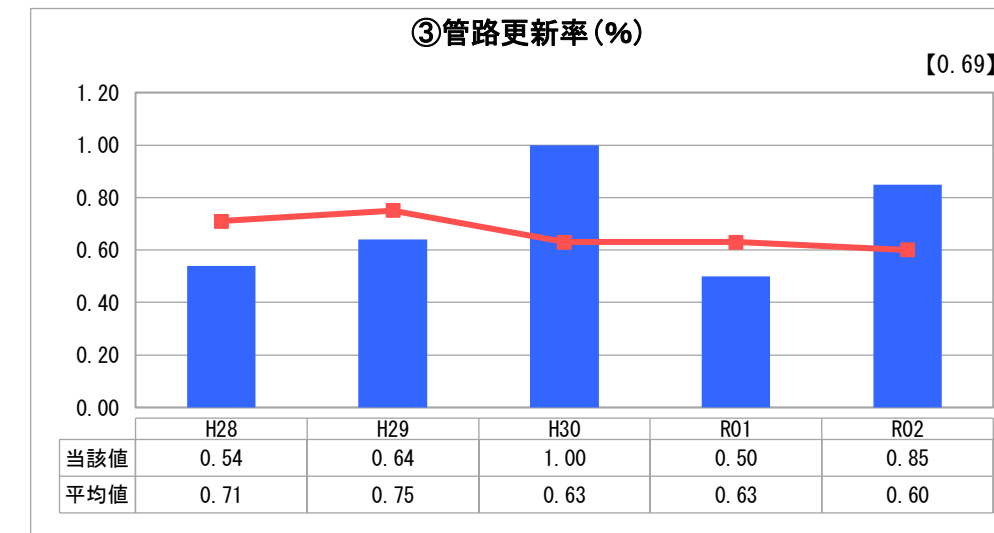
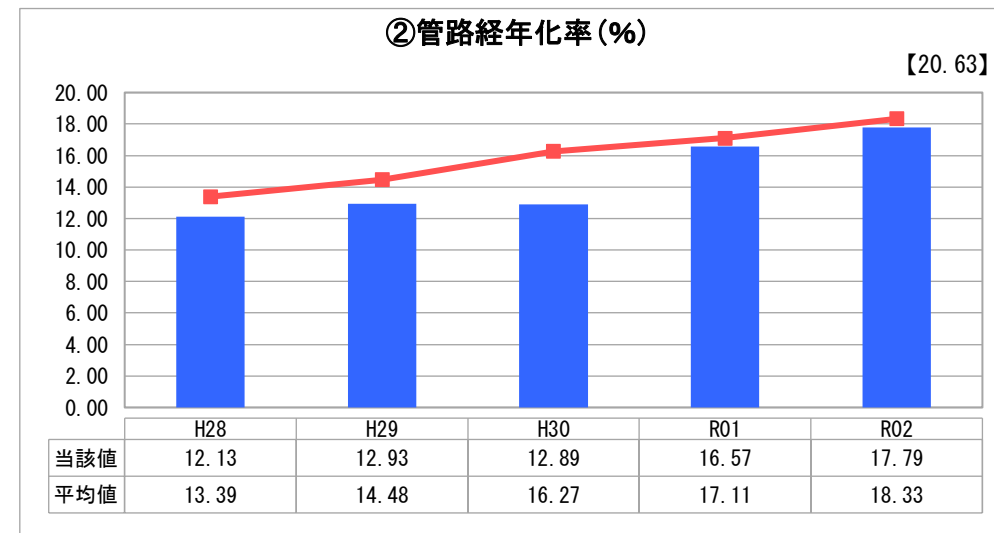
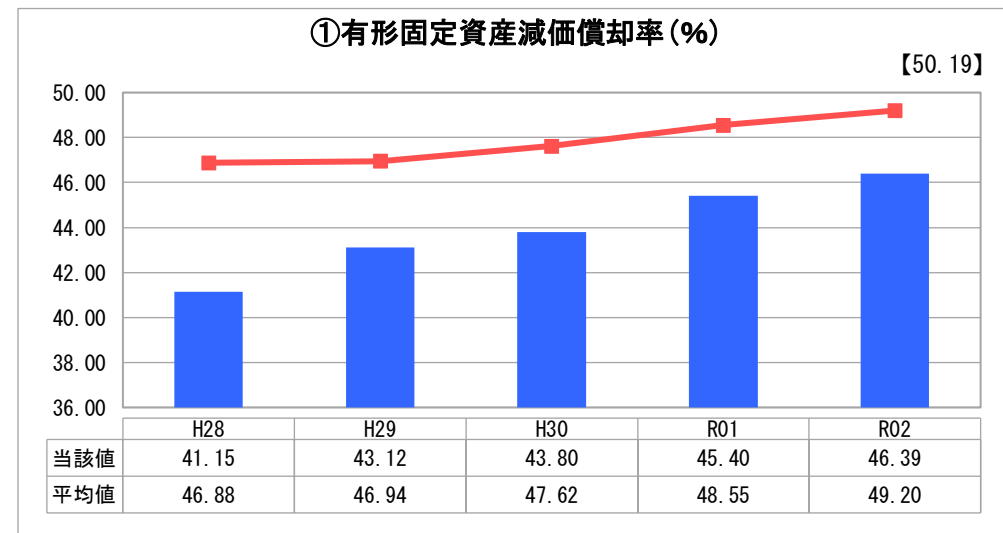
### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っているが、より一層計画的に、施設更新を行っていく。

② 管路経年化率は、類似団体平均値、全国平均ともに下回っているが、より計画的かつ効率的に管路更新を行っていく。

③ 管路更新率は、類似団体平均値、全国平均ともに上回っているが、更新ペースが遅いため、より一層計画的な管路更新を行っていく必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

累積欠損金がなく、経常収支比率は100%を超えているが、料金回収率が100%を下回っており、経費を料金で賄うことができていない経営状況であるため、今後、更なる財源の確保として料金改定を行っていく予定である。

有形固定資産減価償却率、管路経年化率が平均より下回っているが、高度経済成長期に集中的に整備された施設の更新時期が、現在到来している。

管路更新率は平均より上回っているが、更新ペースが遅いため、今後、一気に施設や管の老朽化が進んでいく。

人口や水需要の動向を踏まえ、施設更新のための財源確保に努め、計画的に施設の規模の見直しを含めた更新を行うなど、効率的な経営を行う必要がある。